

- ① … 平成29年度第2回通常理事会・第2回臨時評議会開催
- ② … 座談会 県内5冠を達成した昌平高校・藤島崇之監督を囲んで
～「平成29年度第96回全国高校サッカー選手権大会」と昌平高校の一年を振り返る～
- ③ … 「平成29年度高校新人サッカー大会」優勝記念インタビュー～東京成徳深谷高校 為谷洋介監督～
- ④ … 大会記録●県内大会 1種・2種・3種・4種・女子
- ⑤ … 大会記録●県外大会 シニア 大会記録●県外大会 1種・女子
- ⑥ … 大会記録●県外大会 フットサル インフォメーション 編集後記

●発行/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18 雁ヶ音ビル204号室 Tel 048-834-2002・Fax 048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

平成29年度 第2回通常理事会・第2回臨時評議員会開催

去る2月12日に第2回通常理事会（於：北浦和ターミナルビルカルタスホール）、2月25日に第2回臨時評議員会（於：北浦和ターミナルビル カルタスホール）が開催されました。

理事会における協議事項は以下の通りです。

- 第1号議案 平成30年度事業計画書(案)について
- 第2号議案 平成30年度収支予算書(案)・資金調達および設備投資見込みについて
- 第3号議案 専門委員長・種別委員長の選任について
- 第4号議案 ミッション特別委員会委員長および委員の選任について
- 第5号議案 公益財団法人埼玉県サッカー協会規定等改正(案)について
- 第6号議案 功労賞候補一覧について
- 第7号議案 平成29年度第2回臨時評議員会開催について
- 第8号議案 利益相反について

臨時評議員会における協議事項は以下の通りです。

- 第1号議案 公益財団法人埼玉県サッカー協会規定等改正(案)について

※報告事項として、平成30年度事業計画、収支予算、専門委員長・種別委員長の選任についてなど

●専門委員長・種別委員長の選任について

- フェアプレー・規律委員長 柴崎 康之
- 技術委員長 福田 直史
- 審判委員長 岡田 泉
- 施設委員長 鈴木 豊 (新任)
- 医事委員長 関 純
- 科学委員長 西川 誠太
- 総務委員長 林 昭雄
- 1種委員長 植松 孝博
- 2種委員長 田中龍太郎
- 3種委員長 都所 亮介 (新任)
- 4種委員長 東島 雅之
- 女子委員長 渡辺 典子 (新任)

- シニア委員長 秋谷 仁
- フットサル委員長 高橋 昭夫
- 東部地域協議会 高橋 勝行
- 西部地域協議会 宮崎 幹夫
- 南部地域協議会 佐藤 秀宣 (新任)
- 北部地域協議会 忍田 行廣

※なお財務委員長、広報委員長については、次回理事会にて改めて決定します。それまでは前委員長が業務を行うこととします。

●ミッション特別委員会委員選任の件

- 委員長 会長 横山 謙三
- 委員 副会長 星野 隆之
- 副会長 岡田 泉 (審判委員長)
- 副会長 渡辺 典子
- 専務理事 坂庭 泉
- フェアプレー・規律委員長 柴崎 康之
- 技術委員長 福田 直史
- 施設委員長 鈴木 豊 (新任)
- 医事委員長 関 純
- 科学委員長 西川 誠太
- 総務委員長 林 昭雄

●功労賞候補一覧について

- 田代 英夫 (南部地域協議会推薦)
- 石橋 勝司 (北部地域協議会推薦)
- 西 和彦 (審判委員会推薦)
- 池田 幸二 (シニア委員会推薦)
- 野澤 昌弘 (社会人連盟推薦)
- 日野 聡 (女子委員会推薦)
- 菅 勝行 (4種委員会推薦)
- 浦和レッドダイヤモンズ (ACL 優勝)
- 浦和レッドダイヤモンズレディースジュニアユース (全日本女子ユースU-15サッカー選手権大会優勝)
- 長嶋 玲奈、南 萌華、高橋 はな、長野 風花 (AFC U-19女子選手権中国2017大会優勝)



4種選手権



埼玉県選抜 A チーム

座談会

県内5冠を達成した昌平高校・藤島崇之監督を囲んで

～「平成29年度第96回全国高校サッカー選手権大会」と昌平高校の一年を振り返る～

出席者／藤島崇之（昌平高校監督）・大森健司（県高体連技術部長）・平尾信之（県高体連技術部員）

一発で前線へ、も

— 今回はお忙しい中、ありがとうございます。早速ですが、藤島さんからこの一年を振り返っていただけますか。とにかく昌平の強さが光った一年でした。

藤島 昨シーズンのカップ戦（県新人戦、関東大会、県高校総体、県選手権大会）にすべて勝てたのはうれしい限りです。そしてリーグ戦でも優勝できました。ただ、それは今まで培ってきたベースがあってのことで、そこに新たな取り組みをしたことによる成果だと思っています。

具体的な話になりますが、昨年は針谷（岳晃／ジュビロ磐田）、松本（泰志／サンフレッチェ広島）とJクラブに入った選手たちだけでなく、スピーディな本間（椋／中央大学）がいる中で、昨年（2016年暮れ）のプリンスリーグ参入戦で佐相（啓明／今年から大宮アルディージャ）を出してみました。それまで本間を中央に置いていましたが相手にケアされることが多く、その中央に佐相を置いたら自信を持ってプレーしてくれました。そこから今年は佐相をベースにしたチームになったと思います。もう少し言うと、それまでのボールを動かすだけのサッカーではなく、一発で前線へ繋げるようにもなったのです。ただ守備面は変わらず、主導権を握りながら、攻撃を組み立てて行こうというサッカーをしてきました。

新年度に入り、関東大会はケガ人がいたものの、控え選手の台頭もあり、逆転した試合（一回戦、日体大柏に3-2）もありました。それでも優勝できたことはよかったのですが、高校総体に向けては若干ながら危機感を持つようになりました。というのは、チームの中心である山下（勇希）がそこから伸び悩んでしまったのです。プレーがこじんまりするようになったというか、ボールを取られないよう、変に意識するようになって、無難なプレーが多くなっていったのです。

実際、高校総体で負けた日大藤沢との試合でも、自分でボールを持ちながらもゴールに行かなかったのを見て、自信がないのかと私が考え込んでしまうこともありました。

総体後は生徒たちが大学やJクラブの練習に参加して留守がちになりながらも、ポジションを入れ変えたりして……ようやく選手が揃ったのは、高校選手権の県予選直前だったんですね。ちょうど全体的にゴールを目指す方向性がよくなってきた感触はありました。



藤島 崇之 監督

それでも選手権の県大会は苦しみました。なんとか勝ち切ったのですが、結果的にプリンスリーグの参入戦の時期にはケガ人が多く出てしまい、選手権の本大会ではメンバーを変えなければなりません。正直、クオリティは落ちたのですが、伊藤（雄教）は武器になりましたね。あとで思うと、もう少し選手が持っているスタイルの部分にフォーカスできていればよか

ったと感じました。

1回戦は突破しましたが（広島皆実に1対1からPK勝ち）、2回戦の神村学園戦は勝ち切れませんでした（0対1）。神村学園との試合では、ゲームコントロールが至らなかったと反省しています。ですから、今年は選手の質を引き出すための再チャレンジの年としたいと考えています。

「やらせる」もあつたか

— ゲームコントロールが至らなかったということは、具体的にはどんなことですか。

藤島 相手のある中で、何をフォーカスするかということがぶれたような気がします。自分たちの良さをフォーカスしすぎて、逆にケアされて、それ以外の攻め手を見つけれなかったというのがありますね。

例えばですが、わざと相手に主導権を握らせるとか……相手に「やらせる」というのもよかったかなと思っています。実際、スタッフ間ではハーフタイムに「(相手に)持たせるか」という話はしていたのですが、選手たちに伝え切れなかったんですね。持たせて、ミスしたところをカウンターで攻めようというイメージはあったのですが、ウチもボールを持ちたいわけです（苦笑）。そのため真っ向勝負をしてしまった展開でしたね。

— 戦術変更する判断の難しさとそのコーチング、伝え方があったんですね。ありがとうございます。それでは、大森さん、今の藤島さんの話についてはいかがですか。

大森 今、話を聞いて思ったのは、まだまだユース年代の試合環境等が過密日程の中で開催されているということでしょうか。現段階ではしかたのない事ですが、プリンスリーグへの昇格戦が高校選手権の本大会の直前にあるというのは、一考する必要があります。ユースである山下くんがケガで出場できなかったわけです。選手権の1回戦、彼が途中出場して流れが変わりましたよね。今回の昌平は、山下くんがいない中でどうするか、でした。確かにどのチームもケガ人は出ます。そのダメージをいかに少なくするかを、チームで策を講じておく必要がありますね。強いチームにはそれが必要だと思います。実際、高校選手権そのものの日程も今年は厳しかったですからね。

— 選手たちにとって大会は自分をアピールする場でもありませんから、選手たちにはいいコンディションで迎えてもらいたいものです。それでは、今回TSG（テクニカルスタディグループ）のメンバーだった平尾さんからもお願いします。

平尾 今回の大会で我々TSGは、インテンシティ（強度）とクオリティ（質）という部分に注目していました。大会ベスト4の前橋育英、流経大柏、矢板中央はインテンシティが高く、相手の攻撃に対して厳しい対応をする守備の強度を持ち備えていました。

ちょっとお聞きしたいのは、昌平は県内では引いて守ってくるチームを相手にしていましたが、直前のプリンスリーグ参入戦で矢板中央と試合をされました。矢板中央も自陣で強固な守備ブロックを形成するチームですが、県内チームとの違いはありましたか？

藤島 最後の選手自身が持つ「個」の力でしょうか。これまでや

ってきたことは、相手の守備を一つずつ剥がしながらチャンスメイクしていくサッカーでした。それが矢板中央の試合では、瞬間的な個の力でやられてしまったんです。

攻撃のバリエーションもそうですが、質を求めていかなければいけません。点を取る場面でも突破を選ぶのか、どうするのか。また我慢しないといけない場面もあると思います。選手起用にも影響が出ますね。

浦和西との県予選の決勝では森田(翔)の個の強さが出ました。ただ、その森田で矢板中央との参入戦は崩せると思ったのですが。

平尾 選手権の本大会を振り返ると、強固なディフェンスに対して、状況に応じて攻撃をやり直していたのは前橋育英や大阪桐蔭でしたね。全国的にはカウンターとセットプレーからの得点が多かった大会でした。

実は、昌平の試合は2試合ともTSGとしてビデオ撮影をしていました。主導権を握りながら、攻撃し続けてくれると信じていましたし、時間と共にクオリティを高めてくれると思って



平尾 信之 氏

いたんですよ。絶対、相手には合わせないと思っていたので、資料になるなど(笑)。

藤島 ありがとうございます(笑)。

改めて振り返ってみてこれからを考えると、大きくサッカーを変える気はありませんが、我慢することは大事なと思いましたね。今の一年生にもいい選手はいますし、今回の選手たちのポジションを変えてみるのもいいかとも思いました。

平尾 とにかく昌平は勝利至上主義にはならないですよ。

藤島 それがこだわりですよ。選手たちは練習を重ねる中で、絶対上手くなるんです。あとは「漢(おとこ)」を出せるかどうか。そういう意味では、その前の段階であるU-16では結果を出さないといけないかもしれませんね。

選手権の話に戻りますが、山下は30分の出場が限度でした。狙いとしては、2対0で勝つことと、ビハインドでもラスト30分で山下を入れて同点にする、でした。

大森 山下のドリブルは顕著でした。あと守備がすごく効いているんですよ。

藤島 その守備が矢板中央との試合ではできなかったんですよ。

大森 結果的にしっかり守られて、FK一発を決められてしまいました。それでも神村学園との試合は大丈夫だろうと思っていたんですよ。

藤島 実際、神村学園との試合はどうご覧になりましたか？

平尾 神村学園は2シャドウと両サイド(MF)が高い位置にポジションをとり、昌平のビルドアップを上手くはめている感じがしました。

藤島 ボールを失うリスクがありましたね。相手の10番がイヤな存在でした。あとサイドバックも地味でしたが、存在感がありましたね。

平尾 サイドバックの彼は、攻撃になるとポランチに入ってビルドアップするんですよ。

藤島 そうでしたね。そういう相手に対して、もっとドリブルと縦パスでの侵入ができればよかったかなと思いました。何回でも中央からの攻撃を仕掛けましたし、サイドバックが外から中に入ってシュートを打つとかがもっとできれば……。

トレセンに送り出した選手の変化

大森 先ほどのU-16の話に戻っていいですか。U-16トレセン活動の中に国体があります。U-16は「育成」の出口としていますが、実際、各FAでは勝利を重要視しています。もちろん負けていい試合なんてありません。しかし、個を成長させながら勝つためにチーム作りをしていくには、活動回数と選手の招集に課題があります。U-16は彼らが持っている能力の発見や、個のベースを上げていく中で勝ちを求めていこうと思っています。特別なチーム戦術の練習はしていませんからね。

藤島 選手は勝ちたいという強い気持ちでプレーするのは当たり前です。その中で我々は我慢をしながら育てるということにフォーカスをし、質を上げることを追求して行く必要があると考えます。

大森 勝つことに特化したプレーを要求するのは難しいですよ。

藤島 勝ちにこだわると、スペシャルな選手が出て来なくなりそうですよね。

平尾 高校生として夏を一つ経験しているかどうかで大きな差が出ます。

大森 確かに関東ブロック大会の時期だと二年生のほうがいいですね。それが本大会の時期だとそうも言えなくなるんですけどね。

だから、敢えて二年生を使わず、一年生で勝負するという考え方もありますが、周りが早生まれの選手を多く出場させるのであれば、埼玉もそうせざるをえない状況にあります。難しいところですが、埼玉のスタイルは変えないけれど、周囲に迎合はしないという姿勢も必要かもしれません。あと、トレセンで良いプレーをしていても、チームで試合に出られなかったりすると、もっとクオリティを上げてあげなければいけないと感じます。

藤島 トレセンには選手を出すようにしていますが、選手たちにとってマイナスはないと思っています。逆にプラスの方が多いんじゃないですか？ うち以外のいろいろな指導者に見てもらって、評価されて、課題を見つけて、自信をつけて戻ってきています。チームへの還元を考えても、やはりプラスですからね。

平尾 関根(浩平)くんはよくなりましたね。

藤島 幅が広がったなという感じがします。あと、吉田(航)。本大会の前に、Bチームに吉田を入れてAチームと紅白戦をしたら、Aチームが完封されたんですよ(苦笑)。主力の選手、コーチ陣に「吉田一枚でいい？」って聞いたら、「行きましょう」って言ってもらいました。

大森 いいですね。トレセンで活躍した選手たちがチームで成長してくれることはうれしいことです。またここ数年、昌平からプロ選手が出ていることが、埼玉としても成果だと思います。関東大学1部、2部の試合を観に行くと、彼らのプレーする姿を見るのがうれしいんですよ。こういう活躍が、今の選手たちの励みになります。

藤島さんも平尾さんも、トレセン活動へのご協力を引き続き、よろしくお願いいたします。

—— 成果は出ていますと思います。だからこそ、結果がほしいところです。ありがとうございました。



大森 健司 氏

普段からの準備を

「平成29年度高校新人サッカー大会」優勝記念インタビュー

～東京成徳深谷高校 為谷 洋介 監督～

勝因は守備。粘り強さが出た

— 初優勝おめでとうございます。チームのこと、大会のことをまずは振り返っていただけますか。

為谷 ありがとうございます。今年のチームは先輩たちをよく見ていたようで、まとまりを感じさせてくれています。個々を見て、様々な試練に耐えられる選手が多いと思っています。

もともと私が考えるチーム作りの第一歩は守備です。今回の優勝は、この守備がスムーズに確立でき、まだ発展途中の中、できることとできないことを整理して臨んだ結果だと思っています。

今回、北部支部予選からの参加となりました。正直、例年に比べて他チームのコンディションが上がっていない中、積雪もあって、7日間で4試合というタフな日程をこなすことになりました。ただ、この状況があったことで、メンバーを固定することなく、いろいろな選手を試すことができたことが、チームとしては有益でした。

本大会では、1回戦で選手権のベスト8に入った浦和学院と対戦しました。一言でいえば、勢いのある選手たちが多く、精度の高いプレスキックから2失点してしまいました。それでも苦い思いをしながら、勝ててよかったです。

準々決勝の昌平は3バックを試してきたんですね。相手の戦術もありましたが、我々としては「最初からボールホルダーにプレスをかけ続けよう」と送り出しました。昌平と浦和南の試合を観ていましたが、浦和南は時間帯によってプレスの強弱を決めていたようですが、こちらは最初から最後まで行こうと決めたのです。

それがよかったのか、前半は先制することができ、ウチのペースでしたが、後半になって昌平が4バックにするとこちらがラインを下げさせられてしまいました。上手くプレスが効かなくなったのですが、逆に確立していた守備面の良さが出てきました。カバーリングやボールマーキングのところで粘り強さが出て来たんですね。それでも後半37分に同点とされて……疲労感はありませんね。延長に入ったら足が止まりましたから。でも、自分たちの時間がやってきた中でセットプレーから突き放すことができました。昌平とは去年の関東大会でも対戦して、延長で負けたんですよ。こちらとしては10回やって1回できるかどうかの試合だったと思います。

それで準決勝。すでにここで初めてのことでした。チームとして勢いがつきました。そこで浦和東を相手に、どうするとウチのサッカーがはまるのかを考えました。選手の組み合わせもそうですし、試合の中のケーススタディも考え、浦和東をイメージした練習試合もやり、結果的にはチームとしてトライしてきたことが上手くできた試合になりました。



東京成徳深谷高校 為谷洋介監督

相手の浦和東は平尾先生が初采配の大会ということもあり、どうしてもタイトルが欲しかったと思います。正智深谷との試合を観ましたが、本当にしっかり研究して勝ち上がってきましたからね。ウチに対しては、試合開始からバチバチやってきて(苦笑)。こちらとしても望むところでしたので、選手たちに「プライドを賭けて戦おう」と声をかけました。展開的には、お互いボディブローの打ち合いのような感じになり、どちらが先に効くかというふうに見守っていました。その中で運を引き寄せたのですが、途中交代で入った1年生2人でアシストからゴールを決めてくれたのはうれしかったですね。

「ボールは丸いんだ」

翌日すぐに決勝でしたが、同じ北部の先生方から相次いでお電話をいただきました。特に正智深谷の小島先生からは「顔が引きつっていたら試合に響くぞ。選手たちは見ているからな。それにこの結果はお前にとっても、北部にとっても大きな結果になる。ウチ(正智深谷)以外が優勝することが大事なんだ。だから記憶じゃなくて、記録に残らないと意味がないぞ」と激励をいただきました。励みになりましたね。実は学内的には明るい話題を提供できたので「ここまでで十分!」「よくやった」という雰囲気でしたが、背負っているものはそれ以上のものがあつたわけです。

また、学内の先生からもアドバイスをいただきました。「ボールは丸いんだ。どっちに転ぶかわからない。だから大事なものは準備だよ」と。確かに勝負はどちらに転ぶかわからないなと思いつつ、試合当日は普段通りにミーティングをしましたが、選手たちという時間はいつもより長くしました。終わってみれば、西武台にも延長戦で勝つことができ、初めてのタイトルを獲得することができました。

— 応援してくださった皆さんからは、さらにお祝いのメールや電話があつたんでしょうね。

為谷 はい。しばらく連絡が無かった人とかからもいただきましたね。先輩の中には「ウチのスタッフから成徳深谷が優勝したって聞いたんだけど『正智深谷の間違いじゃないか』と思ってお前に電話したよ」という人もいましたが(苦笑)。

— そういうのもありがたい電話の一つですね。さて、為谷さんは昨年、国体少年男子の監督もされました。関東ブロック大会の結果は残念でしたが、指導者として得るものは大きかったのではないのでしょうか。またつい先日まで関東トレセンリーグがあり、そういう中でこの結果は、素晴らしいと思います。

為谷 しかし、2年連続で国体本大会へ出場できていない中、今年も結果を出せなかったことについては大変申し訳なく思っています。大分国体のときに小茂田さん(佳郁氏・現、本庄高校定時制課程教頭)の下でコーチをしてから、ここまでトレセンに関わってきました。常に選抜チームの監督さんは、各チームから選抜された選手たち一人ひとりとどう向き合っているのか、その個性豊かな選手たちを一つのベクトルに向くようまとめることが大きな課題です。今回、改めて感じたのは、監督として選手たちに戦うメンタリティを焚き付けられるかどうかの必要性でした。結果的に勝てなかった原因はそこにあるのかなと。選手たちは上手いんです。関東の中でもトップレベルです。しかしなぜ勝てないか? このチームで勝つ、埼玉を代表して戦うということをもっともっと理解してもらう必要があると考えています。来年のスタッフには、がんばって本大会出場を果たしてほしいものです。

「凡事徹底」

— 試合そのものだけでなく、球際を含めた一瞬一瞬の「勝負」ということですね。

為谷 そのとおりです。おかげさまで、この立場で県内のトップレベルの選手たち、さらには関東のトップレベルの選手たちを見ることができました。そんな中で、自分なりの「ものさし」ができたことは大きな収穫です。「ここまでできるんだ」とか、「こういうこともできるんだ」という発見ですね。私としては、そういう部分をチームにどう落とし込めるのか。選手に対しての要求するところもそうですが、成長を待つということも意識できるようになりました。

今年のトレセンで、ということではありませんが「ものさし」ができたことによって、チームの方針、スタイルというのが確立されたと思っています。それが先ほどお話しした「守備」であり、その最たるものとしてはまずはボール奪取から、なんです。成徳深谷のサッカーとして「まずはボール奪取」というのは、北部では浸透していると思っています。

本当は「耐えて勝つ」とかをスローガンにしたいのですが、これだとウチに来てくれないでしょうね（笑）。ただ、今いる選手たちは感じてくれていると思いますし、実際に献身性という面では本当に素晴らしいと思っています。

また新人戦に戻りますが、対戦するチームとお互いにハードワ

ークすることで揉まれて、自分たちのよさを出すことができました。ただ、それだけではダメで、勝利を、ゴールをたぐり寄せられる何かがないといけません。待っていてもチャンスは来ません。それだからこそ、普段からの準備が必要なんですね。試合の中ではトレーニング以上の力を出さないのですから。

チームの横断幕には「凡事徹底」と書いてもらいました。当たり前のことを当たり前にできる。そして質を上げていく。サッカーはもちろんですが、生活面も含めて、一人の生徒としての姿勢です。1日2時間程度のトレーニングですが、人数も多く、スペースも限られています。そこでいかに効率を上げていけるか。選手たちがグズグズすることや、ボケたところをいかに排除するかが、指導の大きなテーマの一つです。毎年苦労するところですが、今年のチームは素直に受け入れてくれています。

だからでしょうか。優勝したからといって、驕ることもなく、今まで変わらずにトレーニングに励んでくれています。様子は変わりません。こちらからも一喜一憂することなく「凡事徹底」で進んでいきたいと思っています。

— 為谷さんが変わらないから、選手たちも変わらないのでしょう。小島さんの言葉ではありませんが「選手たちは見ている」んですね。これからの進化を楽しみにしています。ぜひ次は全国へ。ありがとうございました。

大会記録 ● 県内大会

1種

平成30年度彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会

3月25日 東京国際大学グラウンド

1回戦 ACアルマレッザ入間 3 - 5 平成国際大学サッカー部
大成シティFC坂戸 0 - 1 城西大学体育会サッカー部



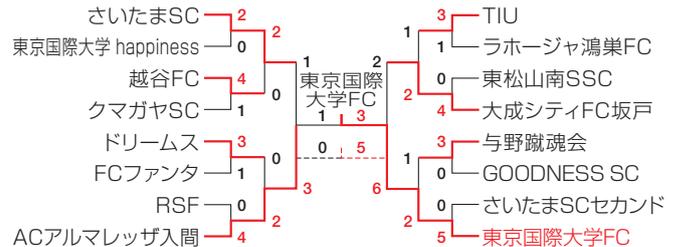
AC入間アルマレッザ vs 平成国際大学サッカー部



大成シティFC坂戸 vs 城西大学体育会サッカー部

平成30年度彩の国カップ埼玉県サッカー選手権大会 埼玉県社会人サッカー連盟会長杯

1月14日～3月4日 熊谷スポーツ文化公園陸上競技場他



※優勝は東京国際大学FC。



決勝 東京国際大学 FC vs AC入間アルマレッザ

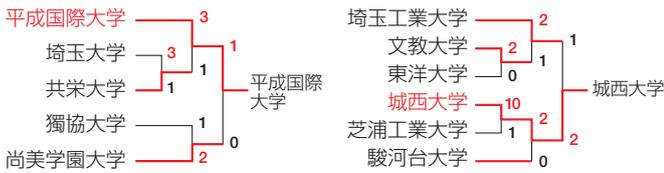


3位決定戦 大成シティFC坂戸 vs さいたまSC

1種 大学

平成30年度第23回彩の国カップ大学代表決定戦

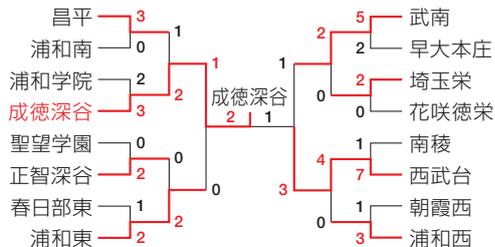
2月25日～3月11日 平成国際大学他



※平成国際大学、城西大学が大学代表に決定。

2種 高体連

平成29年度 埼玉県高校サッカー新人大会



※成徳深谷が初優勝



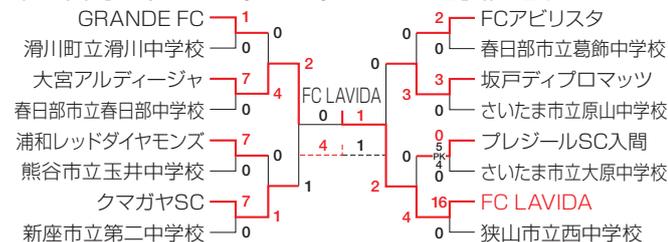
優勝 成徳深谷高校



決勝 成徳深谷 vs 西武台

3種

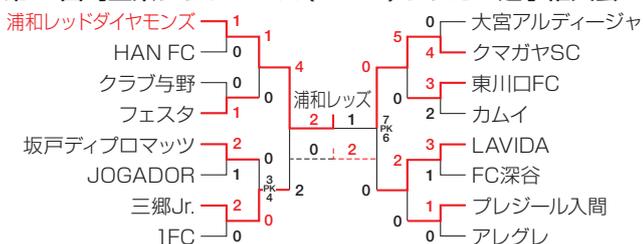
第20回埼玉県ユース(U-13)サッカー選手権大会



※優勝はFC LAVIDA

3種 クラブ

第27回埼玉県クラブユース(U-14)サッカー選手権大会

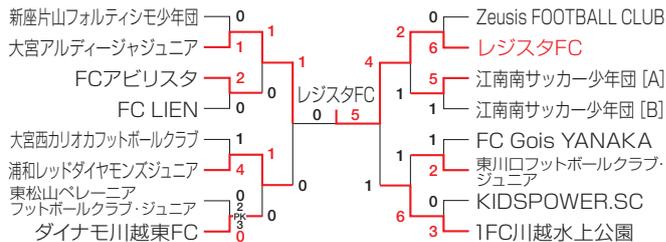


※優勝は浦和レッズジュニアユース

4種

第12回埼玉県第4種新人戦中央大会

2月11日、18日 埼玉スタジアム第2グラウンド



※優勝したレジスタFC及び準優勝の大宮アルディージャジュニアは、埼玉県代表として3月17、18日に千葉県鴨川市で開催されるJ.A全農杯チビリンピック2018関東大会出場した。



優勝 レジスタFC

第3回埼玉県4種少女チーム新人戦大会

2月11日、18日 毛呂山町大類グラウンド他

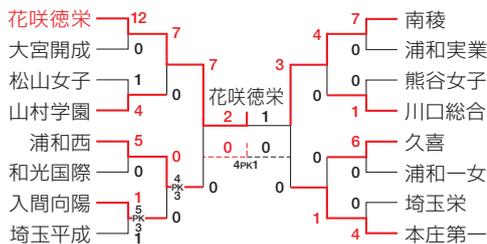


※優勝は戸塚FCガールズWB

女子

平成29年度埼玉県高校女子サッカー新人大会

1月20日～2月17日 東松山市岩鼻グラウンド他



※優勝は2年連続で花咲徳栄



優勝 花咲徳栄高校

シニア

シニア40リーグ 1部

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	セレソン所沢シニア	29	9	2	0	+27
2	クマガヤ	26	8	2	1	+29
3	ソル	25	8	1	2	+16
4	西武台	24	7	3	1	+13
5	川越シニア	14	4	2	5	±0
6	FC浦和シニア	12	3	3	5	+1
7	鳩山	11	2	5	4	-6
8	東松山オールドパワーズ	11	3	2	6	-10
9	八潮シニア	9	2	3	6	-14
10	サンシン	9	2	3	6	-16
11	新明	8	2	2	7	-21
12	KFC	5	1	2	8	-19

シニア50リーグ 1部

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	FC浦和シニア	25	7	4	0	+18
2	NTTシニア	23	7	2	2	+10
3	川口シニア	21	6	3	2	+13
4	セレソン所沢シニア	20	6	2	3	+8
5	東松山オールドパワーズ	20	6	2	3	+2
6	川越シニア	17	5	2	4	+8
7	市高クラブ	15	4	3	4	+5
8	東松山ベレーニア	14	4	2	5	-5
9	パルスFC	12	3	3	5	-3
10	越谷シニア	12	3	3	5	-9
11	八潮シニア	2	0	2	9	-21
12	与野シニア	2	0	2	9	-26

シニア60リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	パルス・US	29	9	2	1	+24
2	FSC	23	7	2	3	+6
3	ポラリス	22	7	1	4	+4
4	KMO	19	6	1	5	+7
5	浦和GP	18	6	0	6	-5
6	春越	13	3	4	5	-3
7	OKG	10	3	1	8	-18
8	サウスフレンズ	4	1	1	10	-15

シニア65リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	シリウス	28	9	1	1	+11
2	ペンタゴン	15	4	3	4	±0
3	エルマノス65	10	2	4	5	-6
4	DREAM FC	6	0	6	5	-5

シニア70リーグ

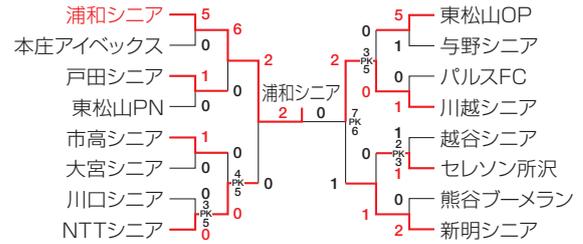
順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	FFC	22	7	1	0	+11
2	パルス	18	6	0	2	+12
3	ゼルコバ	5	1	2	5	-10
4	Gファイター	1	0	1	7	-13

シニア75

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失点差
1	ベレウス	10	3	0	1	+8
2	アルゴス	4	1	0	3	0

第16回埼玉県シニアサッカー選手権(0-50) 兼 第17回全国シニア(50歳以上)サッカー大会埼玉県予選

10月1日~2月25日 くまびあ他



※優勝したFC浦和シニアは関東大会へ出場する

大会記録 ● 県外大会

1種

日本スポーツマスターズ2018 サッカー競技関東予選会

2月10日~18日 熊谷市スポーツ文化村「くまびあ」人工芝グラウンド他

1回戦 ヴェルフェ35 0-2 SAITAMA OVER35

準決勝 OVER35千葉選抜 2-1 SAITAMA OVER35

3位決定戦 エリースFC DX 1-0 SAITAMA OVER35

※優勝は神奈川県選抜。上位3チームが本大会へ出場する

女子

2017関東女子U-15リーグ

順位	チーム名	勝点	勝	分	負	得失差
1	浦和	27	9	0	0	+19
7	白岡	11	3	2	4	-1
8	ちふれ	10	2	4	3	-8

4種

JA全農杯チビリンピック2018関東大会

3月17、18日 鴨川市

●予選リーグ

順位	グループA	勝点	得点	失点	得失点差
1	大宮アルディージャジュニア	9	14	2	12
2	柏レイソルU-12	4	7	6	1
3	鹿島アントラーズノルテジュニア	4	3	6	-3
4	前橋ジュニア	0	0	10	-10

順位	グループD	勝点	得点	失点	得失点差
1	レジスタFC	9	14	0	14
2	FC BONOS MEGURO	6	10	3	7
3	三島FC	3	5	13	-8
4	tonan前橋U-12	0	4	17	-13

●決勝トーナメント



※優勝大宮アルディージャジュニア、準優勝レジスタFC、上位3位チームが全国大会に出場する。

キャノン ガールズ・エイト

第15回JFA地域ガールズ・エイト(U-12)サッカー大会

2月24、25日 ひたちなか市総合運動公園

グループA

神奈川県TC U12レガーム 2-1 SAITAMA GLOW

千葉県トレセンU-12(ピンク) 1-0 SAITAMA GLOW

東京都選抜SUMIRE 3-0 SAITAMA GLOW

グループB

千葉県トレセンU12(イエロー)	2-3	SAITAMA GLANZ
東京都選抜SAKURA	6-0	SAITAMA GLANZ
神奈川県TC U12バンデ	4-0	SAITAMA GLANZ

グループC

SAITAMA SHINE	3-0	神奈川県TC U12 ラン
SAITAMA SHINE	7-0	栃木県トレセン 海
SAITAMA SHINE	2-0	東京都選抜HIMAWARI

グループD

千葉県トレセンU12(グリーン)	1-3	SAITAMA GLUHEN
SAITAMA GLUHEN	3-0	東京都選抜KAEDE
SAITAMA GLUHEN	1-0	神奈川県TC U12リヤン

決勝リーグ2組

SAITAMA GLUHEN	1-2	神奈川県TC U12バンデ
SAITAMA GLUHEN	3-1	東京都選抜YURI

決勝リーグ4組

SAITAMA SHINE	6-0	千葉県トレセンU-12(ピンク)
SAITAMA SHINE	1-3	群馬県トレセン レッド

※優勝は神奈川県TC U12バンデ

フットサル

第23回全日本フットサル選手権大会関東大会

1月20日~28日 小瀬スポーツ公園体育館

1回戦	アルティスタ埼玉	2-8	パディランツァーレ
	烏天狗インペリオ	3-3	LIGARE TOKYO (2PK3)

※優勝はLIGARE TOKYO。上位3チームが本大会へ出場する

ユースフットサル選抜トーナメント関東大会

1月27,28日 久慈サンピア日立スポーツセンター

1回戦	群馬県選抜	2-4	埼玉県選抜
準決勝	埼玉県選抜	1-7	神奈川県選抜

※優勝は東京都選抜。上位2チームは本大会へ出場する

日本トリム Presents

第10回全国女子選抜フットサル大会関東大会

2月3,4日 彩の国くまがやドーム体育館

1回戦	埼玉県選抜	7-2	神奈川県選抜
準決勝	埼玉県選抜	3-0	群馬県選抜
決勝	千葉県選抜	0-3	埼玉県選抜

※埼玉県選抜が優勝。上位2チームと開催地の東京都が本大会へ出場する

2018第12回長野オープンU23選抜フットサル大会

3月16日~18日 長野市ホワイトリング

Cグループ	埼玉県選抜	4-2	富山選抜
	埼玉県選抜	2-4	神奈川県選抜
	岡山県選抜	2-1	埼玉県選抜

※優勝は愛知県選抜

日本トリム Presents 第10回全国女子選抜フットサル大会

3月16日~18日 駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

Bグループ	埼玉県選抜	2-1	岡山県選抜
	埼玉県選抜	7-2	鹿児島県選抜
	埼玉県選抜	2-2	愛媛県選抜
準決勝	埼玉県選抜	2-4	福井県選抜

※優勝は兵庫県選抜

埼玉国際サッカーフェスティバル2018

3月17,18日 浦和駒場スタジアム他

●男子	埼玉県選抜A	1-0	全北現代モータース
	埼玉県選抜B	0-3	パルメイラス
	埼玉県選抜B	4-1	埼玉県選抜B
	パルメイラス	2-0	全北現代モータース
	埼玉県選抜A	2-3	パルメイラス
	埼玉県選抜B	1-2	全北現代モータース
●女子	埼玉県選抜	1-0	タイ王国女子代表
	ちふれASエルフェン埼玉マリ	1-0	南オーストラリア州選抜
	埼玉県選抜	1-0	ちふれASエルフェン埼玉マリ
	南オーストラリア州選抜	0-1	タイ王国女子代表
	埼玉県選抜	2-0	南オーストラリア州選抜
	ちふれASエルフェン埼玉マリ	3-0	タイ王国女子代表



埼玉県選抜 A vs パルメイラス



全北現代 vs 埼玉県選抜 B



埼玉県選抜 vs 南オーストラリア州選抜



タイ王国 vs エルフェンマリ

インフォメーション

●技術委員会より

第73回国民体育大会・福井しあわせ元気国体に向けて各カテゴリーの監督が決まりましたので、お知らせします。

成年男子 秋山健二(さいたまSC)
女子 下山 薫(浦和レッズレディースユース)
少年男子 大野恭平(大宮南高校教諭)

8月の関東ブロック大会に向けて、強化を進めてまいります。ご協力とご支援をお願いします。

●1種委員会より

平成30年度彩の国カップ第23回埼玉県サッカー選手権大会【準決勝・東京国際大学第1グラウンド】

4月22日
11時 城西大学体育会サッカー部 対 東京国際大学FC
13時30分 東京国際大学体育会サッカー部 対 平成国際大学サッカー部
【決勝・NACK5 スタジアム大宮】

5月12日 13時
※ 入場無料です。
※ ご観戦の際には公共交通機関をご利用ください。

編集後記

県内各地で桜が満開となっています。寒暖の差が激しかったからか、今年は開花が早かったですね。どうやら入学式には間に合いそうにありません。また、季節の移り変わりを風の気持ちよさや、日の長さなどで感じられる今日この頃ですが、すぐに汗ばむ季節になりそうです。そんな中、気がかりなのは浦和レッズと大宮アルディージャです。暖かくなってきたのに、まだまだ本調子ではありません。2月に開幕して、もう4月になります。ここからの巻き返しを期待しています。今年ワールドカップイヤーです。ロシアに向けての強化が進んでいます。まだメンバーが見えてこないことを不安視される声も多いのです

が、ハリルホジッチ監督としてはギリギリまで選手たちの伸びしろに期待しているのだと思います。もちろん、早く決めてほしいと願っている選手たちは多いのでしょうか。先日、ベルギーで行われたマリとの親善試合で浦和レッズの宇賀神友弥選手(戸田市出身)が代表デビューを果たしました。なかなか厳しい評価をされているようですが、あの舞台に立てる選手は限られています。まだ時間はありますので、アピールを続けてほしいものです。県内出身選手が日本代表に選ばれることはうれしいことです。女子では長谷川唯選手(戸田市出身)に注目が集まっています。ご声援ください。(荒川)